



前肥田(まえひだ)※方言名：メヒジャン

笠利湾に面する前肥田集落。近くには白浜の綺麗な海岸が広がり、湾内のため波も穏やかで天然の良港です。また、隣の手花部集落とつながる干潟もあります。

防風樹として植樹された「ガジュマル並木」は一集落1ブランドに認定されています。



ガジュマル並木

奄美一と言われるガジュマル並木は、今から100年程前に畑や家畜を守るための防風樹として植樹したもので、奄美市一集落1ブランドでもある。奄美大島の海岸線はこのような風景が当たり前であったが最近では大分少なくなり、この並木が「奄美一」とまで称されるようになった。



潮垣

潮垣は、地元で「カキ」と呼ばれている。カキは遠浅で潮の干満の差が大きい湾に弓状に石垣を積んだもので、満潮時には海中に隠れる。そのため満潮時にカキの中に入った魚が干潮時に取り残される。同時に、小魚やカニ、タコの漁礁にもなる。手花部湾にはこのようなカキが複数あることがわかっている。



大和グスク

西側の山手から東側の海側へ細い尾根が伸び、海側の標高約25～35mの台地に平場をなす山城である。この大和城に「昔は墓があった」ということだが、確認することができなかった。こんもりとした塚があり、その周囲は1mほどの溝で囲まれ「はちまき山」と呼ばれている。



古民家

築島さん宅には、奄美の古民家の特徴をなす(オモテ・トゴラ)が残り、離れたスル浜から運んだ手水鉢(大石)がある。海岸近くのため防風樹として植樹されたガジュマルは大木になり、立派な屋敷林である。シマの旧家の屋敷造りを配している。



ヤマトハナ

前肥田集落は手花部との境界がヤマトハナからなり、シュイリ→ヒジャ→ウルバテ→イケダ→セホ→アサン→ハナズル→ヒンノと地区の呼称が残る。ヤマトハナは大きく海に突き出た先端部で大きなカーブをなし、ケンムン(妖怪)が出没するとして畏られる場所でもある。



遠浅の海岸

前肥田には遠浅の海岸があり、クジラにまつわる話も残る。昭和25(1950)年頃までクジラの解体場所やクジラ石もあった。また、海岸にユタ神様が祀りを行う岩もあり、白い砂浜では八月踊りも行う場所があったことから海岸線は海に関する信仰も残る。



フクギ

台風銀座とも称される奄美のシマジマの屋敷には防風樹として古くからフクギ、ガジュマルなどが活用されていた。特にフクギは島口で「クエジギ」と呼ばれ、葉が広く厚いため火災による延焼を防ぐということからその名がつけられている。ここのフクギも火災の延焼を防いだフクギ並木である。



湾曲した海岸線

堤防から見る、湾曲した海岸線が向こうまでつづいている。堤防までの道のりの間には、低く大きく枝を伸ばしたガジュマルもあり、静かでとても神秘的な空間が広がる。集落民が誇る、一押しの絶景ポイントだ。